

現場で使える！研究成果

水はけ悪い圃場での  
牛の飼料向け草種は

輸入飼料がここ数年高騰し、養牛農家の生産コストが増している。所得を向上させるには、自給飼料を活用し飼料費を抑えることが重要だ。

本県の自給飼料生産は、水田での牧草類栽培が作付面積の約5割を占めている。しかし、収量は畑で作付けしている場合と比べ半分程度にとどまっている。原因の一つは、作付けされている飼

料作物が排水不良の影響を受けやすい草種であることが考えられる。

そこで、6草種12品種の暖地型飼料作物について、排水不良条件を再現したポット試験で生育状況や収量を調べた。その結果、ギニアグラス「ナツカゼ」、栽培ヒエの「グリーンミレット中生」「および」「青葉ミレット」が安定して高い乾物収量を得られた。

排水不良圃場



これを踏まえ、排水不良の水田跡現地圃場で栽培したところ、栽培ヒエの「グリーンミレット中生」と「青葉ミレット」が発芽も良好で、乾物収量が高かった。

表 排水不良圃場における発芽の良否と乾物収量

草種	品種	刈取日	刈取ステージ	発芽良否	乾物収量 (kg/a)
ギニアグラス	ナツカゼ	8/20	出穂期	6.0	39.9
	グリーンミレット中生	8/13	出穂期	8.5	67.3
栽培ヒエ	青葉ミレット	8/13	出穂期	8.5	62.7

※県内2カ所の平均 ※発芽良否：1（不良）～9（極良）

なお、栽培ヒエの播種時の覆土が薄いと発芽率が低下するため、覆土厚は5～6センチとする。ま

た、刈り取り後は雑草化による後作への影響が出ないよう、必要に応じて十分な耕うんなどの管理を行う必要がある。

（長崎県農林技術開発センター 畜産研究部門 緒方剛）